
開講科目名：現代会計論研究（4単位）
開設年次：1年 2年
開設学部：会計学研究科博士前期課程会計学専攻
担当者：笠井 昭次

《授業の概要》

【授業の概要】

会計は、現在、大変動期にあるが、ともすれば、時価評価の導入だけが脚光を浴びており、そのため、現代会計は、一般に時価主義会計と特質づけられている。つまり、伝統的な取得原価主義会計論は、環境要因の変動を反映する時価を無視しているという理解のもとに、時価評価の導入によって伝統的取得原価主義会計論の理論的欠陥を是正できるという考え方である。

しかし、こういう考え方によっては、現行会計の動向を適切に理解することは不可能である。なぜなら、現行会計の変革は、いわゆる金融資産の評価全般にかかわっているからである。つまり、伝統的な取得原価主義会計論は、もっぱら価値生産活動だけを対象としており、資本貸与活動（金融活動）を無視してきた。したがって、この点を是正しないかぎり、会計は、不完全なのである。現代会計理論は、こうした視点から再構築されなければならない。

本講義は、こうした視点のもとに、現代会計の全体を合理的に説明する説明理論を検索したい。ただし、その点に関する私見を一方的に述べるのではなく、他の学説と比較検討しながら行なう。そのプロセスにおいて、受講生諸君がみずから考える力を身につけられるような形で講義をしていきたいと考えている。

【授業の内容】

1 会計（学）の基礎と領域

- (1) 会計（学）の性格と領域
- (2) 会計の機能
- (3) 会計の構造
- (4) 測定規約の考え方
- (5) 取得原価主義会計論の意義と現代会計論の動向

2 価値生産活動の会計

- (1) 入帳規約および損益計算規約の全体像
- (2) 実現主義の本質
- (3) 原価配分の諸相と特殊な支出の期間配分

3 資本貸与活動の会計

- (1) 派遣分資産に関する会計の全体像
- (2) 定利の獲得を企図する資本貸与活動の会計
- (3) 投機的損益の獲得を企図する資本貸与活動の会計

4 資本の算段活動の会計

- (1) 負債処理の基本的原則
- (2) 負債性引当金の諸相

結章 現行会計の全体的性格

【評価方法】 随時レポートを課すので、そのレポートにより評価する。